

## 過酢酸(キノーサンPA)の透析機器洗浄剤としての評価

第 43 回 日本透析医学会学術集会

丸山禎之・和田 茂<sup>1</sup> / 中田和正<sup>2</sup> / 栗岡康子・脇川 健・山田明子・佐々木敏作<sup>3</sup> (大阪掖済会病院 透析室<sup>1</sup> / 検査室<sup>2</sup> / 内科<sup>3</sup>)

【目的】過酢酸キノーサンPA(PA)の透析機器洗浄剤としての有用性について検討した。

【方法】PA(pH1.80)35～500倍希釈を用いて接触時間(0.5、1.0、5.0分)における大腸菌、緑膿菌、真菌への殺菌性をみるために48時間培養を行った。排液ラインのシリコンチューブ内に析出した乳白色のゲル状物質への洗浄性をPA及び次亜塩素酸Naに12時間浸漬させ観察した。個人用透析機器の洗浄、消毒をPA50倍希釈の滞留法にて行い、装置部品の酸化鉄の除去性及び水洗性について評価した。

【結果】PA50倍希釈では0.5分で各菌への殺菌性を認めた。接触時間5.0分において、大腸菌、緑膿菌では500倍希釈、真菌では100倍希釈で死滅した。次亜塩素酸Naではゲル状物質が溶解されているのに対し、PAでは剥離が観られた。滞留洗浄にて部品の除錆効果がみられ、炭酸Caの析出を配管内に認めなかった。水洗性において、pHは水洗15分でRO水同等、残留過酸化水素は10分で検出感度以下となった。

【結論】キノーサンPAは殺菌性、酸洗効果を兼ねそなえ、透析機器洗浄剤として有用であると思われた。